

明治維新旧庄内藩の武士たちはなぜ鶴岡城下から8キロも離れた松ヶ岡の地を開墾したのか、わたくしには今もって謎です。

最初宇治茶の栽培に失敗し、翌年には静岡茶の栽培にも失敗し三度目に桑の栽培による、絹織物産業を興したことは当時我が国の輸出の過半をお茶と絹織物が担っていた状況が多分に影響して居った様に思います。

富岡製糸場に研修生を派遣し、女工を40名も連れ帰ったなど、先人の知見には感服するばかりです。

2001年には慶応義塾大学先端生命科学研究所の開所に伴い、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株)、SPiber(株)、など9つのバイオベンチャー企業の操業と多くの研究者の育成に貢献した。一般社団法人鶴岡サイエンスパーク代表理事・富田勝さんと鶴岡のシルク産業の復活に貢献している鶴岡シルク(株)代表取締役大和匡輔さんの存在、松ヶ岡の地でぶどうでワインを醸造。ファームガーデン&ワイナリー松ヶ岡を立ち上げた早坂剛さん等変えなければ何も変わらないふるさと鶴岡が、どの様な変貌を遂げるかを見るのが昨今の楽しみのひとつです。